

せいわ

2025
医療法人近藤会
清和病院
夏号

●2025年8月発行 ●年4回[1月、5月、8月、11月]
●高岡郡佐川町乙1777
●TEL.0889-22-0300 ●FAX.0889-22-1777
●清和病院広報委員会発行

基本理念

私たちは、患者さま方に良質で安全な満足感のある高度な専門医療技術の提供と、地域における救急医療、保健・福祉サービス、介護などの生活の質(QOL)の向上に寄与することを目指します。

私達がお迎えにあがります！



▶ 通所リハビリテーション せいわ (介護・介護予防)

ご利用時間：月曜日～日曜日 10:00～16:10 (基本)

※送迎エリア：日高 (役場周辺) ～ 佐川町 ～ 越知町 (宮の前周辺)

▶ サン・スクエア・セイワ (精神科デイ・ケア)

ご利用時間：月曜日～土曜日 9:20～15:20 / 10:00～16:00

※送迎エリア：日高 (役場周辺) ～ 佐川・越知町 ～ 仁淀川町池川

※送迎エリアの詳しいお問い合わせや、ご利用についてはお気軽に下記へお問い合わせください。

☎ 0889-22-0300 (担当者が対応致します)

また、併設の

▶ デイサービス きららの里 (地域密着型通所介護)もごさいます。(有限会社きらら舎)

ご利用時間：月曜日～金曜日 (水曜休み) 10:00～15:10

※送迎エリア：佐川町内

※送迎の詳しいお問い合わせや、ご利用についてはお気軽に下記へお問い合わせください。

☎ 0889-22-1410 (担当者が対応致します)



住み慣れた地域で安心して暮らすために



- この頃元気が出んがよね
- 趣味も楽しめなくなった
- 物忘れし出したけど認知症だろうか

本人が気づいていないことも…

こんな相談どこにしたらいいがやろ

- この頃足腰が弱って外に出るのが億劫になった
- 夏場はどうしても食欲が落ちるき熱中症が心配
- 日中一人で家に居るのが寂しいがよね



清和病院では、外来通院、入院治療はもとより、住み慣れた地域で安心して生活を送ることができるよう、グループ全体で栄養士・理学療法士・相談係を含めた多職種からのアプローチにより、支援内容を一緒に考えサポートさせて頂いています。

またご入院をされた後も退院に向けて、活用できる社会資源や、介護が必要な場合等のさまざまな状況をご家族様と話し合い、在宅復帰へ向けた支援を行います。
在宅への退院が難しい場合は、適切な転院先や施設などのご紹介等の調整もしています。

清和病院グループ



日頃から何となく感じていても、相談できずに時間が過ぎてしまうことはありませんか。
「その人らしくどう過ごすか」、チーム一丸となってお手伝いさせていただきます。
まずは、お気軽にお問い合わせ下さい。

お問い合わせ先 清和病院 TEL : 0889-22-0300
相談係りや、それぞれの専門職や各担当者が対応させて頂きます。

春に行われたイベント

4月 山菜フェア

いたどり等の山菜を、患者さんが皮をむき、管理栄養士が調理するという共同作業で、「山菜のおこわや、お吸い物」を完成させ、患者さんの皆さんに召し上がって頂きました。山菜にちなんだクイズなども行い、皆さんの楽しそうな顔が最高でした！



一匹の大きなこいのぼりを、それぞれの病棟の患者さんがうろこを一枚ずつ貼り、美しく立派なこいのぼりが完成しました！
またこいのぼりの中をくぐったり、おやつも食べたりと良い笑顔を頂きました。

5月 こいのぼり



6月 映画鑑賞

今回、映画鑑賞を初めてのイベントとして、室外や室内で、ポップコーンやアイスクリーム、ジュースなどと一緒に楽しみました。



理学療法 臨床実習

現在、高知リハビリテーション専門職大学に在学中の4年生が「理学療法学専攻 理学療法臨床実習Ⅲ」のため、5月から45日間と、7月から45日間行う実習を受け入れています。

意欲的に前向きに実習に取り組まれており、理学療法の臨床現場で実習を通して様々な気づきを得られているように感じます。
学校でさらに学びを深め、今後の臨床実習にも活かして頂ければ嬉しいです。



職員のスキルアップを支援

当院では、看護職員のスキルアップを支援しており、今年も3月に准看護師3名の方が「看護師国家試験」に見事合格し資格を取得されました。今回はそのお1人にインタビューをしました！

Q 正看護師免許を取得しての気分は？

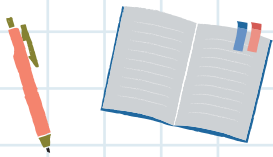
A やっと終わった！やっと取れたー！

Q 資格が取れて、お給料は変わりましたか？

A はい、あがりました(笑)

Q 試験を受けることにした理由は？
またそれはどういう流れで？

A 准看護師の免許は義母より勧められ取得。その後の正看護師の学校は金銭面などの理由もあり断念。以降は取得の意思は無くなっていた。今回、法人からの支援を頂けることになり、また家族の全面協力という力強い後押しを受け心が動きました。何より看護師を勧めてくれた義母を喜ばせたくて一念発起しました。



Q 仕事と勉強の両立で、ご家族の協力は具体的にはどのようなものでしたか？

A 家事は、夫が「まかせとけ」と全部やってくれました。でも家族の気遣いはかえって痛いこともあり、何時から勉強する？とか1人にしてくれる時間を提供してくれるなどの配慮があり・・・「プレッシャー!!!」でした(笑)

Q 国家試験の勉強についてはどうでしたか？

A 実習を受ける時期には、コロナ禍で実習が無くなりましたが、その分課題が増えました。でも自分にとっては好都合！というも病棟での立場や、職場を何日も離れるのは心配でした。それからはその増えた課題に取り組みました。徹夜になってしまった時もありましたが、その後の勉強については、時間は2時間と決めて参考書の内容も少なめから徐々に増やすなど工夫をし、試験が近くなると更に集中して行いました。

Q 後輩に対しての助言

A できれば一発合格がよいですね。
毎回試験の傾向が違うので。

★インタビューよりのひとこと★

実は、看護学校に通うお嬢さんとも同じ時期に受験したという事で、身近な良きライバルだったが、自分とはともかく娘には合格して欲しい！という気持ちだったと、母心も聞くことが出来てこちらまで温かい気持ちになりました。合格したことをご家族に報告すると、家族全員が涙したとのこと。ご本人の強い思いとご家族の愛を感じました。

薬立つ話



薬剤科

「この世をば我が世とぞ思ふ望月の欠けたることもなしと思へば」

これは平安時代の権力者、藤原道長による和歌です。ご存じの方も多いのではないのでしょうか。

栄華を極め、絶頂期の宴にて詠まれたものといわれていますが、この時にはすでに大病を患っていたという文献も残されています。文献では「喉の渇き」「多飲」などが記されており、つづいて眼病、感染症により62歳で亡くなられたそうです。

これらの症状は糖尿病でみられる症状にそっくりなのです。当時は糖尿病という言葉もなく、謎の病気とされたのでしょう。今では予防法や治療薬もあります。気になる方は一度受診されてみてはいかがでしょうか？

